

まち、ひと、湯前の元気と魅力を届ける [広報ゆのまえ]

# yunomae 03

2017.MAR  
Vol.429

特集

こころ、おどる、ひなまつり。

「スズメの学校」  
チイッコ  
雀の学校の先生は  
むちをフリフリ  
チイッコ……  
生徒の雀は輪になぞ  
お口をせうて  
チイッコ  
のだまだいけな  
チイッコ……  
チイッコ  
チイッコ





# 手作りのぬくもりで 笑顔があふれる場所—。

■手作りひなまつり展 (①~⑩)  
干支の酉をイメージした作品をメインに、会場にはつりひなや小物などが色鮮やかに飾られている。本物のような料理などもあり、見ごたえばつぐん。花や木、テーブルなど作品を活かすレイアウトづくりにこだわっている。会員は笑顔で来客をおもてなし。温かな雰囲気にはリピーターも多い。

■布と遊ぶ展 (⑫~⑯)  
赤、青、ピンクなど色鮮やかなタペストリーやひな人形は古民家の雰囲気ぴったり。「お茶でもどうぞ」と会員が優しく声をかけてくれる。奥のスペースでは会話ははずみ、時間もゆるやかに流れている。

「あかりをつけましょぼんぼりに」。  
各地で童謡が聞こえてくる3月3日。桃の節句。ひなまつりは女の子のすこやかな成長を祈るものです。人吉球磨地域では、ひな人形を観光につなげようと、毎年ひなまつりの時季に合わせて展示を開催。湯前でも魅力的な展示が長年続けられています。

## 人吉球磨中にならぶ 「ひな飾り」

人吉球磨郡市では平成10年2月から春のイベントとしてひなまつりを開催しています。10市町村と民間団体でつくる「ひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン実行委員会」が主催し、ことしで20年目を迎えました。

当時は、ひなの寺として有名だった相良村の専徳寺をPRして人吉球磨の観光客を増やすための取り組みでした。少しずつ協力する施設が増え、現在は古民家や旅館、公園など12会場をメインにひな飾りがあり、昨年は5万6千人が訪れました。

のデザートやドリンクのサービス、3月3日にはくま川鉄道とコラボした「おひな列車」など、期間中はさまざまなおもてなしが満載。ことしは期間限定のランチ、御膳だけでなく、2月17・26日にはおつまみとワンドリンクを楽しみながら各地の飲食店を回る「ひなバル」もありました。

## 町内2カ所が 初春の観光スポットに

本町では2月12日から2会場で色鮮やかなひな飾りが展示されています。湯前駅よこのふれあい交流センター「湯くとびあ」では、本町のパッチワーク愛好家が集まる「ひなの会」(山浦艶子代表)16人が15回目となる手作りひなまつり展を開催。会場には、

「とりの羽ばたいていきたい」と干支の酉にちなんで作られた「すずめの学校」や「つるの恩返し」などのひな飾りをメインに、約1000点の力作が並んでいます。オープンングセレモニーでは椎葉奈海都くん(7歳下染田)がおだいりさま、妹の美月さん(6歳)がおひなさまに変装し、来場者をおもてなし。扉を開けると天井やかべ、机など視界いっぱいひな飾りが映り、そこはまるでおとぎ話の世界。すべての作品は会員が針と布を使って作り上げた「手作り」です。

上猪区の永山哲男さんの古民家では布遊びグループ「いのかくら」(福田謙代表)6人が「第5回布と遊ぶ展」を開催。古民家には会員が手がけたタペストリー(布の壁掛け)やさげもの飾り、明治時代に作られたひな人形やびようぶなどがきれいに飾られています。

昨年、ひなの会の展示には6500人、布と遊ぶ展には500人が来場。郡市内外だけでなく、県外からもたくさんの方が会場を訪れていて、いまや本町の観光スポットになっています。

## 手作りひな祭り展を訪れた人たちの声



川内 護さん(73=熊本市)

私は京都府出身なので、小京都といわれる人吉球磨の雰囲気が好きです。毎年のように展示を見に来ています。作品は一つ一つ丁寧に作られていて、人も優しい。人吉球磨のレベルは高いですね。



田川 香美子さん(63=熊本市)  
栗崎 文子さん(68=あさぎり町)

古布や昔のものを使ってあるので、あたたかみやなつかしさがありません。アイデアがよく練られていて、これだけユニークなものが作られていることに感動しました。知人に紹介したいぐらい見ごたえがあると思います。

# 人の心をおどらせる 作り手の心。

多くの人が訪れる湯前のひなまつり展。よく聞こえてくる「また来たい」という言葉。そこには人の心をひきつける魅力がありました。



ひなの会代表  
山浦 艶子さん(79=下村)

使わなくなったものに魂を

手作りひなまつり展は当初、町の生涯学習教室で主催していましたが、教室が閉講。この展示を続けようと山浦艶子さんが教室に通っていたメンバーに呼びかけてひなの会をつくりました。

古布の鮮やかさが特徴のひな飾りは布選びから始まりまず。配色を考え、できあがり想像してから仕入れ。活動はボランティア。予算も限られているため、それぞれ自宅から使わない着物を持ってきてきたり、仕入れた着物一枚をみんなで分け合ったりしています。山浦さんは「古いものにも命があります。家にある着物を捨てずに使い、喜んでもらえることがうれしいです」と話します。

友だちのようなつながり

作成は3班に分かれて、週1〜2回ほど。2カ月に一度、全員が集まり、でき具合や今後の予定を確認して、全体の構成や会場のレイアウトを考えます。針を持たない日はほとんどないという山浦さん。「ひなに明け、ひなに暮れる日々。自分の作りたいものが完成することや、一つの目的を持つことが楽しいです。針を持っていてもおしゃべりだけで2、3時間過ぎることもあります。会員は本当に良き友です」。来場者に湯前をPRしようと一縫い一縫いにこだわりながら、楽しむ気持ちを忘れません。

来場者にはお茶や梅酒のふるまい。写真や手紙を送られたりする交流も生まれています。「私たちのことを新聞の『読者のひろば』に投稿してもらったときはうれしくて涙があふれました。15年間でお友だちのようなつながりがたくさんできました」。温かなおもてなしとこだわりが多くの人々の心をひきつけています。「1回目の展示ができたときは夢のようでした。すべて手作りのひなまつりはほかにはないもの。誇りに思っています。湯前といえば『手づくりのひなまつり展』と言ってもらいたいのです。この思いを次の世代へと引き継ぎつつも、まだまだ針は持ち続けていきたいと思っています」と山浦さんは笑顔で話しました。



1 土台はお茶を乾かすための竹細工を使用 2 使っているのはこだわりの古布。使わなくなったものに命を吹き込み、ほかにはないあたたかみを出している 3 楽しさとこだわり。力作1000点を作り上げた会員16人とかわいい人間ひなの2人 4 読者のひろばに投稿された記事を読み上げる山浦さん 5 みんなで準備。笑顔と会話が絶えない仲

来場者と一緒に作る

布と遊ぶ展では古民家のドアを開けると「中にじつぞ」と「いのかくら」の会員が迎えられます。福田謙さん(83=上里)にパッチワークを習っていた永山治美さん。展示のきっかけは古民家のリフォーム中に福田さんが「ここで展示をしてみたい」と言った一言。一緒に習っていた永山さんの同級生らも集結。現在は、訪れた人の協力もあり、会場には会員以外が手がけたスギ玉や陶器のおひなさま、竹細工なども一緒に飾られています。

部屋の奥には座ってお茶を飲むスペースがあり、訪れた人もゆっくり語りながら時間を忘れてしまう居心地の良さ。永山さんは「ゆっくり遊んで行ってくださいという気持ち。『まだここにいたい』と思ってもらえるとうれしい、



布遊びグループ いのかくら  
ながやま はるみ  
永山 治美さん(65=上猪)

楽しみながらできることを

お月見やホタルのタペストリー、鯉のぼりの飾りものなど、ひなまつりだけでなく、会員はそれぞれ作りたいものを作っています。タマネギのつくりものは本物の皮を使って布を染めるなど各作品に工夫がキラリ。永山さんは「年々、いろんな作品に挑もうと思っています。何よりも自分たちが楽しみながら、自分たちができることをやっていきたいです」と話しました。好きの気持ちから始まり、多くの人が集まる展示は町の大きな魅力です。作る人たちがみんなが楽しんでいきます。作り手のパッチワークを楽しんでいる作品を見る人に伝わり、感動やいやしを与えているのです。皆さんも好きなことに夢中になってみませんか？あなたの喜びがほかの人とつながり、さらに自分の気持ちを高めてくれるはずですよ。

特集 ころ、おどる、  
ひなまつり(完) —

■布と遊ぶ展  
日時 ~3月中旬  
午前9時~午後4時  
場所 湯前町1254番地1  
(永山哲男さん宅の古民家)

※「人吉球磨はひなまつり」は3月20日まで。町内二会場の入場は無料



いのかくら  
ほりかわ すみこ  
堀川 澄子さん(81=上猪)

なかなか上手には作れませんが、みんなで材料をそろえたり教え合ったりしながら楽しくやっています。「楽しかった」「いやされた」と言ってもらえると私もうれしいです。



いのかくら  
しいば あきこ  
椎葉 章代さん(65=野中田1)

パッチワークもそうですが、何よりも楽しみなのが、お茶飲みとおしゃべり。料理の話などで盛り上がっています。作品もそうですが、アットホームな雰囲気を楽しんでもらいたいです。



ひなの会  
またば くみ  
的場 久美さん(76=浅鹿野)

同じ作品でもちょっとした布の使い方、色のバランスで、善し悪しが変わることが難しいです。使わなくなった古布で、これだけのものが作れるというところをみてほしいですね。



ひなの会  
しまだ きょうこ  
嶋田 京子さん(79=中里1)

縫い針や糸も本格的なものを使うので、半年くらいは大変でしたが、この展示を見て「自分も頑張りたい」と思い夢中になっていきました。みんなが先生、みんなが生徒です。優しくアドバイスをもらっています。

■手作りのひなまつり展  
日時 ~3月20日(月・祝)  
午前9時~午後4時  
場所 ふれあい交流センター  
湯〜とびあ  
※3月3日には先着50人に桜もちのふるまいがあります

# 湯前イチゴと 絶品スイーツに 来場多数



「2017ゆのまえ苺まつり」は2月12日、農村環境改善センターで開かれ、湯前産イチゴの直売会やスイーツを目当てに多くの人でにぎわっていました。

町特産のイチゴを町内外に広めようと町観光物産協会（上米良秀人会長）が主催し、6回目の開催。直売会では湯前産の「紅ほっぺ」「さがほのか」の2種類が販売されました。一パックだけでなく箱買いをする人もたくさんいて、1200パックが完売。先着200人には摘み立てのイチゴが配られました。

会場内では町内の製菓・飲食店がイチゴを使ったショートケーキや大福、シュークリーム、プリンなどの絶品スイーツを販売。地元団体による各種バザーもありました。ステージでは上里1区出身の柴田千恵子さん（25）こと「Raimu」によるスペシャルライブや「ゆつくん」、九州電力の「みらいくん」と会場の子どもたちによるゆるキャラショー、慈光子ども園の園児による体操、エイサー、太極拳サークルの演舞などもあり、にぎわっていました。



1,7会場には絶品イチゴスイーツがたくさん2笑顔で販売するイチゴ生産者3たくさんの方がイベントを楽しんだ41200パックが完売した湯前産イチゴ5スイーツを買い求める来場者6透き通るような歌声で会場を魅了したRaimuさん



## No.1 第43回都市対抗駅伝、第34回都市対抗女子駅伝

# 本町出身選手4人が力走、男子2位、女子は5位

第43回都市対抗熊日駅伝が2月12日、天草市役所前をスタート、熊本市のびぶれす熊日会館前をゴールとして開かれ、14区間106.5キロのコースに県内各都市から19チームが出場し、球磨郡（前田洋監督）は2位でフィニッシュしました。

本町からは3区（11.7キロ）に吉村晃世選手（宮崎県小林高3年II浅鹿野）、9区（8.5キロ）に樫木謙雄選手（31II古城出身）が出場。5位でスタートした球磨郡は徐々に順位を上げトップでたすきを受けた樫木選手は区間賞の走りで、後続を突き放しました。吉村選手も力走し、最長区間を7位となる35分41秒。球磨郡は12区で熊本市に追いつかれ、49秒差で優勝を逃しましたが、昨年から一つ順位を上げる活躍を見せました。

区間28.4キロのコースであり、19チームが出場。本町から栗原緑選手（千原台高3年II上染田）と栗原泉選手（湯前中3年）が出場し、二人の力走で球磨郡は昨年10位から順位を五つあげる5位でゴールしました。

男子総合成績

①熊本市 5時間31分57秒  
②球磨郡 5時間32分46秒  
③玉名郡 5時間36分08秒

女子総合成績

①熊本市 1時間34分14秒  
②山鹿市 1時間38分51秒  
③宇城市 1時間39分00秒  
⑤球磨郡 1時間39分49秒



9区で区間賞を記録した樫木選手（左）



5位の好成績をおさめた女子チーム

第34回都市対抗女子駅伝は1月22日、熊本市のびぶれす熊日会館前を発着点とする7



緑選手から妹の泉選手への姉妹リレー

個人成績（本町関係）

※（通過順位）[区間順位]

▽3区（11.7キロ）  
吉村 晃世  
（宮崎県小林高3年II浅鹿野）  
35分41秒（4）[7]

▽9区（8.5キロ）  
樫木 謙雄（古城出身）  
25分31秒（1）[1]

個人成績（本町関係）

※（通過順位）[区間順位]

▽4区（3.4キロ）  
栗原 泉  
（湯前中3年II上染田）  
12分48秒（3）[4]

## ゆのまえ暮らし体験ツアー

# 東京の二家族が湯前の食や農を体験

熊本県に移住を考えている人に、湯前の暮らしや自然の魅力を感じてもらおう「ゆのまえ暮らし体験ツアー」が1月28、29日に町内一帯で行われ、東京から二組6人の家族が参加し、農や食の体験や施設の見学などで湯前の良さを感じていました。

ツアーは都市部に住んでいて、移住を考えている人に湯前の魅力を感じてもらい、移住につなげようとするもので



湯前の体験ツアーを笑顔で過ごした二家族（一番右はふるさと回帰支援センター職員）

町が主催。NPO法人ふるさと回帰支援センター（本部＝東京都）が情報提供に協力し、本町のツアーに興味を持った二家族が参加しました。

1日目は人吉温泉駅から「くま川鉄道」の観光列車に乗って湯前に到着。町職員や地域おこし協力隊の案内で学校や商店街、病院などの町内の施設を見学したあと、町農業公社の畑でほうれん草の収穫を体験。ゆのまえ温泉「湯楽里」ではくまもと米粉インストラクターの鶴田幸子さんを講師に米粉やイチゴを使った料理を体験しました。2日目は、湯前まんが美術館や、改修された空き家を見学し、わらじ作り体験などをして湯前を満喫。参加した佐々木聡さん（42＝東京都）は「楽し

かった。もつと山間部をイメージしていたが、思っていたより開けた土地だった。野菜やお米などが美味しかった。体験施設でも湯前の良いところをたくさん聞いた」と話し、中山一孝さん（39＝東京都）は「初めて熊本に来たけれど、人が温かくて良かった」と湯前に好印象を抱いています。



改修された空き家を見学



農業公社の畑でほうれん草の収穫体験をする参加者たち

## みやぎ原木しいたけ生産再開感謝の集い

# 湯前クヌギで届いた生産の光

復興支援として本町がクヌギ原木を提供した宮城県で1月31日に「みやぎ原木しいたけ生産再開感謝の集い」が開かれ、シイタケ生産者や関係者、100人が元に戻りつつある生産を祝いました。

集いは東日本大震災の原発事故で発生した放射性物質の出荷制限を乗り越え、再開させたシイタケの生産を祝うもの。宮城県特用林産振興会、農林水産部林業振興課が主

催、しいたけ生産者らが協力しました。

震災前には生産者221人が年間180トを生産していましたが、震災後には最大21の自治体で出荷が止まり、生産者42人、年間45トまで減少。現在、9自治体で制限が解除。28人が生産を再開し、生産量を少しずつ増やしています。

本町と水上村は平成23年3月に災害復興支援協議会を設立。平成25年の2月にクヌギ原木5000本を宮城県に寄贈しました。その後、送料を町が負担するなどして宮城県から1万4000本の追加注文があつていきます。

集いには鶴田正巳町長と町職員が出席し、特用林産振興会長の郡山賢一さんが鶴田町長へ感謝状を贈呈。生産者が再開までの取り組みや現状を報告、クヌギ支援の講演もありました。鶴田町長は「大変な苦勞を乗り越え、生産者の皆さまが集いを開かれたこと

に心からお祝い申し上げたい。町の地域資源を使い、必要なものを必要な時期にお送りするということで支援させていただいた。協議会を立ち上げてよかったと感じている」とあいさつ。

生産者の熊谷幸夫さん（58＝仙台市）は「出荷が止まったりするとき、私も2万本のクヌギが使えなくなりました。仕事がなくなるのかと不安な日々を過ごしていた。熊本のクヌギで立派なシイタケができた。いろんな人の応援でここまで続けてこられた」と話していました。会場には原木で育った直径10センチほどの肉厚のシイタケが展示され、シイタケを使った料理で、生産者と消費者が交流を深めていました。



感謝状を受け取る鶴田町長（右）



湯前に贈られた直径10センチほどの立派なシイタケ

会場にはクヌギ原木とシイタケが並べられた

No.5 第60回熊本県広報コンクール

# 「広報ゆのまえ」町村の部で 4年連続特選受賞



表彰を受賞した人吉球磨の広報担当者たち  
(右手前=湯前町の担当者)

第60回熊本県広報コンクールの最終審査が1月12日、熊本市の熊日新聞本社で行われ、「広報ゆのまえ」が広報紙・町村の部で1位となる特選を4年連続で受賞、一枚写真の部でも2位となる入選を果たしました。

同コンクールは市町村広報紙のレベルアップを目的に毎年開催され、熊本県広報協会と熊日新聞社が主催。県内の市町村から広報紙の部に27点、広報写真・組み写真の部には82点の応募がありました。

本町は広報紙の部に平成28年9～11月号、一枚写真の部には球磨工業高校カヌー部を撮影した、9月号の2ページ「頂へのスプリント」を提出。審査員からは「組み写真を効果的に使った紙面づくりが光るが、こしは特に読みやすく感じた。イメージ写真



一枚写真の部で入選に輝いた「頂へのスプリント」

- ▼ や文字の配りも巧み。特集写真、レイアウトが工夫され、読者を惹きつける」などと評価されました。
- ▼ 広報ゆのまえ9月号はことし5月に行われる全国広報コンクールに熊本県代表として出品されます。町村部では広報にしき(錦町)が佳作、市部や組み写真の部に広報ひとよし(人吉市)が入選するなど、こしでも人吉球磨勢の活躍が目立ちました。
- ▼ 広報紙・町村部
  - ▼ 特選 広報ゆのまえ(湯前町)
  - ▼ 入選 広報ましき(益城町)
  - ▼ 佳作 広報にしき(錦町)
  - ▼ 同・市部
    - ▼ 特選 広報きくち(菊池市)
    - ▼ 入選 広報ひとよし(人吉市)

No.6 第17回地域伝統芸能祭り

# 東方太鼓踊りがテレビ放映



NHKで全国放送される東方太鼓踊り

2月26日に東京都渋谷区NHKホールで開かれた「第17回地域伝統芸能祭り」に本町の東方太鼓踊りが出演しました。3月18日の午後3時からNHK Eテレで出演の様子が放送されます。

日本各地に受け継がれてきた芸能を保存・伝承し、地域を活性化しようと地域伝統芸能まつり実行委員会が主催、総務省、文化庁、観光庁、NHKが後援。

東方太鼓踊りは地区で長年受け継がれ、町から無形民俗文化財として指定されています。テレビ放送では全国の舞台で披露された踊りを見ることが出来ます。ぜひご覧ください。

※広報ゆのまえ2月号裏表紙に掲載した内容が一部変更になりましたのでお知らせします。

(変更前) 放映 NHK BS  
(変更後) 放映 NHK Eテレ

地域伝統芸能祭り  
ホームページ  
<http://www.jafra.or.jp/matsuri/>

- ▼ 広報写真・一枚写真の部
  - ▼ 特選 卒園おめでとう。ありがとう先生。(合志市)
  - ▼ 入選 頂へのスプリント(湯前町)
- ▼ 同・組み写真の部
  - ▼ 特選 私たち一人一人が復興の光(菊池市)
  - ▼ 入選 復興願ひ雄たけび響く おくん祭り(人吉市)



全国スポーツ推進委員協議会から感謝状を受け取った荒木さん

No.4 体育功労者に感謝状や表彰状

# 荒木利八さんに全国スポーツ 推進委員協議会から感謝状

全国スポーツ推進委員研究協議会福井大会が昨年11月に福井県鯖江市の「サンドーム福井」をメインとして開かれ、町スポーツ推進委員会長の荒木利八さん(69||野中田3)に感謝状が贈られました。

全国のスポーツ推進委員や生涯スポーツ関係者が集まる大会で(公社)全国スポーツ推進協議会連合(本部||東京都)が主催。大会中、荒木さんには「30年勤続スポーツ推進委員表彰」が贈られました。

荒木さんはスポーツ推進員(当時||体育指導委員)を30年間務めていて、平成16年から平成24年まで副会長、平成25年から現在まで会長として活躍。熊本県や球磨郡でもスポーツ推進のために活躍し、数々の賞を受賞しています。

昨年12月には本町の社会体育の発展に貢献した4人と1団体に「湯前町体育協会功労者表彰」が贈られました。各団体から推薦され、町体育協会が表彰しました。表彰者は次のとおり。



- ▼ 全国スポーツ推進委員  
30年勤続表彰  
○ 荒木利八
  - ▼ 湯前町体育協会功労者表彰  
○ 米良廣二(野球・地区役員など)  
○ 栗原 泉(陸上)  
○ 片山清弘(ボウリング)  
○ 高木翔大(カヌー)  
○ ゲートボール女子
- 湯前町体育協会功労者  
(左から ゲートボール女子(亀山哲馬監督)、高木くん、栗原さん)

### 九州女子柔道選手権県予選会

# 地域おこし協力隊の安井佳奈さんが 2年連続で九州大会に出場!

第27回九州女子柔道選手権大会熊本県予選会が2月11日に熊本市の東海大学付属星翔高校武道場で開かれ、地域おこし協力隊として活動する安井佳奈さん(24歳中猪)が準優勝を果たし、2度目となる九州大会への出場権を獲得しました。

大会は無差別級で大学や警察に所属する選手などの実力者10人が出場。上位二人が九州大会に出場でき、全国大会にもつながる大きな大会です。安井さんは兵庫県出身。龍谷大学柔道部(京都府)に所属していたときに合宿で来町し、人の温かさに魅力を感じ



九州大会での活躍を誓う安井さん

て、移住を決意。現在地域おこし協力隊としてまちの活性化のために活動しています。大学時代は関西大会個人戦2位の実績を持つ実力者。現在、湯前少年柔道クラブで小・中学生に指導もしています。

昨年、初出場で初優勝を飾った安井さんは第1シードとして2回戦から出場。初戦、準決勝、ともに1本勝ちで決勝に進みました。決勝戦の相手は熊本県警。相手の組手によく対応し、技をかけて優勢でしたが、終盤に頭が下がったところを内股で合わせられ、一本を取られました。

安井さんは「優勝はできなかったが、試合の進め方や組手の対応などは昨年よりもよかったです。九州大会では一戦一勝で勝ち上がっていきけるよう、練習を積み重ねたい」と

### No.8 里帰り講演会

# 画家の犬童徹さんが 母校で講演

画家で本町中里1区出身の犬童徹さん(75)が1月13日に湯前中学校(迫田正純校長)を訪れ、全校生徒95人に絵に込めた思いを伝える「里帰り講演会」を開きました。

犬童さんは昭和16年に本町で生まれ、人吉高校、東京芸術大学美術学部を卒業後、画家として数々の賞を受賞。現在は兵庫県に在住し、大阪教育大学教育学部の名誉教授、二紀会委員を務め、町内に自身の絵を寄贈しています。今回は湯前中の生徒に犬童さんの表現や思いを学んでほしいと開催されました。

犬童さんは湯前中に寄贈し



湯前中に寄贈されていた犬童さんの「夜明けのトランペット」



生徒に自身の思いを伝えた犬童さん

た「夜明けのトランペット」について解説。作品制作に取り組むシルクロードについても写真を見せながら紹介し「すばらしい勉強ができるので社会人になってから、ぜひ外の世界に行ってみては」と生徒にアドバイス。椎葉愛美さん(同校3年)は「絵の経緯を知れたり、普段は見ることのできないシルクロードの世界を見ることができたりして良かった。湯前中の先輩がすばらしい作品を残している、誇りに思った」と犬童さんにお礼を伝えていました。

### No.9

## 町内の保育園や小学校で陶芸教室

# 園児・児童が 陶芸で卒業の 思い出づくり

町内2カ所の保育園と湯前小学校で卒業を記念する陶芸教室が開かれ、ことし3月に、

卒業を控えた園児や児童が保護者や仲間と一緒に卒業記念品を作っていました。



笑顔で卒業の記念品を作る親子

卒業記念品を作ること親子や友だちとの思い出をつくるってほしいと町教育委員会が主催。1月24日に湯前保育園で開かれた教室では年長児16人とその保護者が粘土でふくろの置きものを作りました。

老人クラブ陶芸部会(黒木一理会長)が講師として協力しました。黒木会長は「保育園最後の行事なので親子一緒に立派な作品を作ってほしい」とあいさつ。親が粘土の形を整え、子が土台にくっつけていくなど協力しながら作品を作っていました。作品は陶芸部会が素焼きをして、園

児たちが色づけ。卒業式で飾られたあとは各家庭に持ち帰られます。

2月10日には、湯前小6年生35人が同校でマグカップ作りに挑戦。西浦大蔵校長は「作った焼きものは大切にしていれば大人になっても残る。心を込めて思い出に残る作品を作ってほしい」と児童に話しました。

児童は筒状の型に粘土を巻きつけるなどしてマグカップを作成。陶芸部会のメンバーに教わりながら、友達と見せ合ったりして陶芸を楽しんでいました。

地元有志が集まるネットラジオでも湯前をPRするために活動している



### 15歳の誓いと感謝を発表 湯前中2年生立志式



←親の思いを手紙で受け取る生徒

↑自分の誓いを発表した生徒たち

湯前中学校2年生の立志式が2月10日に同校体育館で開かれ、生徒30人が夢・目標の発表や、保護者へ感謝のメッセージを伝えて決意を新たにしました。元服に合わせ、ことし15歳になる生徒がこれからの決意を発表する場として毎年開催。会場には保護者からも駆けつけ、生徒たちの姿を見守りました。

迫田正純校長は「今日立てた自分の誓いに向かって、信じた道を突き進んでほしい」とあいさつ。生徒たちは保護者と向かい合い、「前進」「挑戦」「初心」「歩」など一人ずつ自分の目標を書いた色紙を持って発表しました。「達成」の文字を目標にした田中琴美さん(同校2年下染田)は「勉強は少しの時間もあきらめず積み重ねて計画的にやっていきたい。部活動でも基礎練習を積み重ねてコンクールで金賞を達成したい」と発表しました。それぞれに保護者からの手紙が送られ、手紙を読んだ生徒たちは笑顔になったり、涙を流したりして、保護者の思いを受け取っていました。

### 1月29日(日)

文化財防火デーにともなう防火演習が1月29日に城泉寺であり、町消防団員や自衛消防団約60人が消火訓練を行いました。文化財防火デーは昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物「法隆寺金堂」が炎上し、壁画が焼けてしまったことから制定されたもの。毎年防火デーの前には全国で文化財の防災のための訓練が行われています。

ことしは城泉寺阿弥陀堂から出火したとの想定で訓練が行われました。冷たい雨が降る中、消防団員と自衛消防団員がホースや放水銃を使ったり、手順を確認しながら中の三尊像を運び出したりしました。

町教育委員会の藤崎正人さん(35)野中田3)は「町内には城泉寺をはじめ、八勝寺や御大師堂など歴史的に貴重な建物が多く残されている。後世に残すためにも『地域のたからは自分たちの手で守る』を motto にそれぞれ協力して取り組んでいきたい」と話していました。

### 2月16日(木)

卒業を記念した湯前小学校の植林が2月16日にゆのまえグリーンパレス芝生広場近くの町有林で行われ、6年生とその保護者約60人が参加し、親子で植林を楽しんでいました。

植林はことし3月に卒業を控える6年生にふるさとへの愛着をもってもらおうと毎年会場を移して開催されています。町職員から植え方の説明を聞き終わると、児童はクワを持って元気に山の斜面を駆け上がり、ヤマモミジの苗木110本を保護者と一緒に植えました。

作業中にあふれる親子の笑顔。参加した落合諒くん(同校6年)中猪)は「うまく植えることができたと思うので、この木が一番高く大きくなってくれたらうれしい」と話し、保護者の智さん(49)は「湯樂里に行くときに見える位置にあるので、この木の生長を見守り続けていきたい」と話していました。

### 2月17日(金)

湯前小学校の環境出前講座が2月17日に同校で開かれ、4年生29人が身の回りのごみについて学び、自分たちに何ができるかを考えました。

不法投棄や大量に廃棄されているごみのことを知り、環境について考えるきっかけをつくらうと(一社)県産業資源循環協会青年部が主催し、毎年県内複数の小学校で開催されています。

同青年部員が講師として、教室で家庭や町で出る一日のごみの量や、不法投棄の現状を児童に説明。児童は町から1日2.8トのごみが出ていることを知り、ごみの分別や収集車へのごみ投入も体験しました。永田悠大くん(同校4年)上里3)は「リサイクルは環境をよくすることが分かった。ごみ収集車が荷下ろしをするところや実際に分別をしたことがおもしろかった。ご飯を残さず食べてごみを減らし、出たごみはリサイクルするようにしたい」と話していました。

### 地域の宝は自分たちの手で! 城泉寺で防火演習



ホースなどを使い消火訓練をする団員たち

### ふるさとへの愛を根づかせる 湯前小6年生が記念植林



一緒に作業をする児童と保護者

### ごみ減量やリサイクルの大切さ学ぶ 湯前小4年生環境出前講座



実際にごみを分ける児童たち

### 米粉の使い方を学ぶ 人吉球磨管理栄養士会研修会



鶴田さんから米粉の使い方を学ぶ栄養士たち

人吉球磨管理栄養士会の研修会が1月26日にゆのまえ温泉「湯樂里」で開かれ、管内の栄養士15人が米粉を使った料理を学びました。

同会は人吉球磨の病院や施設、行政などの管理栄養士が集まる団体で、年に3回研修を開催。今回は施設・病院食に活用できる料理を学ぼうと、くまもと米粉インストラクターの鶴田幸子さんを講師に米粉を使った料理5品を作りました。

鶴田さんは「昔は饅頭やお団子に使われていたが、最近は粉がきめ細やかになったことでお菓子やパンに使われるようになった。油の吸収も少ないのでヘルシーな料理が作れる」と説明。参加者は米粉を使ったグラタンやクレープ、汁物などを作り、そのおいしさに驚いていました。参加した前田朋子さん(老人ホーム福寿荘)は「料理はおいしくて、予想していたよりも手軽に作ることができた。なかなか施設で米粉を使う機会がなかったので、使えるときには米粉を使ってみよう」と話していました。

2016年本屋大賞など  
史上初の三冠受賞作



ゆるされている。世界と調和している。それがどんなにすばらしいことか。言葉で伝えきれないなら、音で表せるようになればいい。ピアノの調律に魅せられた一人の青年。彼が調律師として、人として成長する姿を温かくつづり、祝福に満ちた長編小説。

羊と鋼の森  
宮下 奈都(著) 文藝春秋

ペン一本で描いたモノクロ絵本で  
世界を圧倒したキンコン西野が描く絵本



4000メートルの崖にかこまれ、その世界を知らない町がありました。町はえんとつだけ。朝から晩までモックモク。夜空をかける配達屋さんが、煙をすってせきこんで、配達中の心臓を、うっかりおとししてしまいました。

えんとつ町のプペル  
にし の あきひろ(著) 幻冬舎



中央公民館図書室

# 読書の ススメ

○平日 8:30~17:00  
○土日・祭日 9:30~17:00  
※貸出期間は2週間で、一人5冊まで。

【お問い合わせ】中央公民館  
TEL0966-43-2050

死の淵から「よみがえった」記録



「ものづくり地獄」の音楽制作、俳優業の舞台裏から、エロ妄想で乗り越えた闘病生活まで。突然の病に倒れ、死のふちから復活した著者の怒りの3年間。

蘇える変態  
星野 源(著) マガジンハウス

体を張って人生の苦手克服を  
し続けている著者の実録

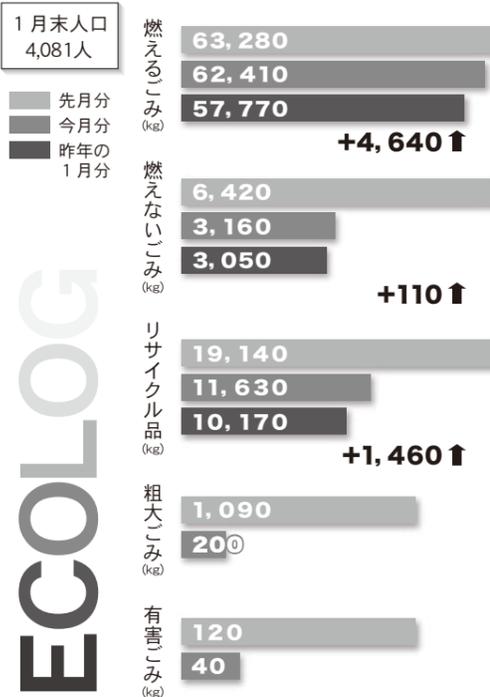


これまで当たり前のように使ってきた道具や、こうしなきゃと思っていたこと、ついとらわれてしまう考え方の癖を一つ一つ仕分けして「やめてみる」。試行錯誤を繰り返しているうちに、いつしか生きるのがラクになっていく。読んでいるうちに心の中からすっきりしていく一冊。

やめてみた。本当に必要なものが見えてくる暮らし方  
わたなべ ぼん(著) 幻冬舎

## 2月のごみ情報

### ごみを減らすためのキーワードは『3R(スリーアール)』



☆発生抑制=Reduce (リデュース)  
【ごみをできるだけ減らす】

- ・買い物には、マイバックを持参(レジ袋をもらわない)。
- ・容器包装の少ない商品を選ぶ。
- ・いらぬ包装や付属品は断る。
- ・食べきれぬ分だけ調理して、食べ残しゼロ。

☆再使用=Reuse (リユース)  
【使えるものは繰り返し使う】

- ・いらなくなったものを、必要な人にゆずる。
- ・壊れていても、修理して使えるものは使う。
- ・つめ替え商品(シャンプー、洗剤など)を選んで買う。

☆再生利用=Recycle (リサイクル)  
【使えないものをまた使えるようにする】

- ・資源ごみは、きちんと分別して出す。
- ・再生品や環境にやさしい商品を買う。

リサイクルステーションからお願い

※3月の不燃物収集は1、15日です(第1・3水曜日)。  
※3月20日(月)春分の日、いつも通りごみ収集します(月・木収集地区のみ)。

# 湯前の よか\*とこ 発見!

~地域おこし協力隊です~

今月のリポーター \* やすい かな 安井 佳奈



保育士にしがみついてもこわがる園児 泣きながらもしっかりと鬼に豆を投げていました

## 「飛び交う豆と泣き声~勇敢な子どもたち~」

皆さん節分の日に豆まきをしましたか?今月は、町内で見かけたかわいいお話です。  
2月3日、湯前保育園の豆まき。私は「園庭でこやかに豆を投げるのかな」と思っていたのですが、想像を超えていました。  
教室に入ると、先生が園児に「みんなの心の中に泣き虫おにはいるかな?ぐずぐずおにはいるかな?」。どうやら鬼さんから一枚の紙が届き、中には五つほどのチェック項目。それに丸がついた園児には鬼がくるようです。悪いことをしていないか自分の心に問いかける園児たち。  
鬼にそなえて豆を持つ園児の前とうしろからまっ赤な鬼と緑の鬼が...!がっちりとした体、手には金棒、怖い顔。その迫力に驚き、逃げ回ったり、先生に隠れたり、(鬼に勝てる)唯一の武器の豆がなくなって泣き叫んだり...。教室は豆と叫び声が飛び交っていました。そんな中、ぐっと涙をこらえ鬼に向かって必死に豆を投げる勇敢な姿もありました。大きな鬼と一生懸命戦っている姿にほっこりしました。  
無事に鬼を退治して、年と同じ数の豆を食べると園児たちに笑顔が戻ってきました。一年間の無病息災を祈って行われる節分の豆まき。さあ、寒さに負けず元気いっぱい過ごすぞー!!

## 今月の ゆのまえがお 工藤 祐二さん (20=中里1)



ゆのまえらじおのディレクターも務める工藤さん

「笑顔がすてき」「何かPRしたい」などたくさんの人を待っています!  
(総務課 地域おこし協力隊まで TEL 0966-43-4111)

ひとこと「町の人が仲の良い湯前が好きです!」

ほかにもゆのまえ情報がいっぱい!くわしくは湯前町総合情報サイト、ゆのまえかじり内の「ゆのまえがお」へアクセス!



<https://www.yunomae-kaziri.com/>  
(ゆのまえかじり と検索してもアクセスできます)

## 「冬を感じる雪景色」

協力隊のゆのまえ暮らし(隊員がゆる~く近況報告)

寒かった日の朝、外に出ると草木が霜で真っ白に。太陽の光で輝いてきれいです。いつもの霜と少し違います。この正体は「霜柱」。小さな氷の柱が何本も集まり一つになっているのを初めて見て、朝から感動しました。その1週間後、湯前に雪が降りました。1年ぶりに見る雪がうれしくて、うっすらと積もった雪で雪だるまと雪うさぎを作りました。ことしも無事に冬を感じる事ができたので、あとはあたたかい春が来るのを待つのみです!(安井)



かわいいサイズの雪だるまと雪うさぎができました

保健師だより

# あなたの「貯筋」、 応援します!!

～皆さんは、貯筋していますか?～

今回は、町内の二つのモデル地区で「貯筋」に取り組んでいる「いきいき毘沙門クラブ」と「いきいき振興館クラブ」の活動をご紹介します。

## 普段から筋肉を大きくする「貯筋」

筋力運動をすることで、普段から筋肉を大きくすることを「貯筋」といいます。何歳になっても、筋力運動を行うことで必ず筋力はつきます(間違った方法で実践すると、関節を痛めることもありますので、正しい方法を知ることが大切です)。

## あなたの夢は何ですか?

「長く歩くのは大変」「体力がもたない」「関節が痛い」などの理由で、夢をあきらめていませんか?「貯筋」することで、生活を不自由なく過ごせるだけでなく、あきらめかけていたあなたの夢も叶うかもしれません!!



## 町内でも「貯筋」のための活動が始まっています

### いきいき 毘沙門クラブ



①DVDをお手本に体操します  
②体操だけでなく、交流の場としても盛り上がっています!

### いきいき 振興館クラブ



①一人ではなかなかしない運動も、近所の人と一緒にすると続けられます!  
②介護予防サポーターの人の活動も、大きな支えになっています

## 「いきいき〇〇クラブ」開始のための支援を行っています!

保健センターだけでなく、上球磨地域包括支援センターや公立多良木病院の理学療法士などが、このような活動を始めるための支援を行っています。効果が認められている「いきいき百歳体操」という筋力運動の紹介や体力測定など、最初の1カ月間ほどお手伝いをしますので、関心のある人はお気軽に保健センターへご相談ください。(TEL0966-43-4112)。

(湯前町保健センター 保健師 野々原)



### 【今月の表紙】

人吉球磨の春を告げるひなまつり。2月12日からひな飾りが各地で展示されました。手作りひなまつり展では、『すずめの学校』などの作品が温かく来場者を出迎えています。

## editorial note

▼毎年写真を撮るのが楽しみなひなまつりの展示。作品もそうですが、何より温かな雰囲気が好きです。「趣味がいきがいて、町の魅力になる」。まちづくりでも大切なことではないでしょうか。取材中、すばらしい人と展示のあるまちで暮らせることは幸せだなあと改めて感じました。

▼4年連続で広報ゆのまえにうれしいニュースが届きました。町の皆さん、取材を快く引き受けてくださりありがとうございます。広報紙はよく「行政と住民をつなぐもの」と言われます。行政、住民どちらか一方ではなく、どちらの思いも必要。これからは皆さんと一緒に作る広報紙でありたいと思っています。ぜひ、いろんな情報提供もお待ちしております。

▼むし歯が気になり始め、10年ぶりに歯医者に通うことに。長年行ってなかったため、どうやらたくさん治療が必要みたいですね。普段から定期的な治療やチェックをして、お金と時間を節約したいと心から思いました。(佐)

## 編集後記

—湯前町青年団だより—

団長 瀧森 道太  
2017 VOL.12

# がまだすっ!



1・2月のわだいを  
紹介します

### 青年団の話題

1/22

## 球磨郡 青年団協議会 駅伝大会



トップの球磨村とわずか7秒差で2位でした。来年は優勝できるよう頑張ります!

1/29

## 熊本県青年団協議会 問題研究集会

2/5

## 里宮奉納 ミニサッカー大会



あいにくの雨で室内開催でしたが、子どもたちも笑顔で参加してくれました♪地域婦人会の豚汁の振る舞いもありました。ありがとうございました!

2/10

## 球青協問題 研修集会



2/12

## ゆのまえ 母まつりバザー



2/19

## 春の御開帳に向けた相良 三十三観音めぐり研修会

2/26

## 地域伝統芸能祭りで 太鼓踊りを披露 団員11人が協力

### 青年団情報

NEW INFORMATION  
YUNOMAE SEINENDAN

3月5日(日)

## 球青協総会

3月

## 湯前町青年団総会

やまの あきと  
山野 瑛人 (27=中里2)

「青年団員として地域の皆さんの活力になり、団員みんなでおもしろおかしく盛り上げていきます!」



## 戸籍の窓

### ご結婚おめでとう

迫田 邦雄 (人吉市)  
濱崎 美和 (野中田3)

佐藤 啓介 (岐阜県)  
谷口 真里奈 (田上)

地内 優治 (植木)  
林 紗央理 (多良木町)

高木 健太 (浅鹿野)  
宮崎 健太 (神奈川県)

永田 大嗣 (天草市)  
洲崎 大嗣 (天草市)

宮崎 健太 (浅鹿野)  
宮崎 健太 (神奈川県)

岩元 瑞喜 (野中田1)

たんじょうおめでとう(うぐいす)

岩元 瑞喜 (野中田1)

平成29年1月1日～平成29年1月31日

広報ゆのまえ2月号の内容に誤りがありました。訂正し深くお詫言申し上げます。

P8 本文 (誤) 地域婦人会が振る舞うぜんざい  
(正) 湯楽里が振る舞うぜんざい

P9 見出し (誤) 第2分団第1部(上染田)  
(正) 第2分団第1部(上下染田)



地域を繁盛させることが  
きつと自分に返ってくるー。

## ZoomUp

—湯前人の輝きに迫る—

### 県商工会女性部主張発表大会で 最優秀賞に輝いた兼田 美穂さん(51=上里2)

2月7日に熊本市の植木文化ホールで開かれた「県商工会女性部主張発表大会」。県内9ブロックの代表が地域振興の取り組みを発表し、県南代表の兼田美穂さんが最優秀賞に輝いた。

兼田さんは「潮おっぱい祭り」や本町の商工会女性部が考案した「おっぱい体操」などを中心に10分間発表。同女性部はそれぞれ商売をてがけながら、地域のにぎわいをつくり、兼田さんも「兼田製菓補」でお菓子の製造・販売をしつつ活動している。「有志が主催する祭りやおっぱい体操をもっと知ってほしかった」と全国でもめざらしい「おっぱいの神様」(潮神社)にちなんだ取り組みに焦点を当てた。

「代表として舞台に立つ以上優勝したかった。応援にきてくれた人たちも大きな声で喜んでくれてうれしかった」と笑顔を見せた兼田さん。昨年4月から、自宅で練習を始めた。県大会出場を決めた7月からは商工会で女性部長らと原稿を練り直し、さらに練習を重ねた。

「女性部として何ができるのか考えて行動した。自分の商売だけでなく、地域とかかわり全体を繁盛させていくことで、自分に返えつてくるはず」。その思いは言葉になつて会場に届いた。

兼田さんはことし7月に熊本代表として九州大会に出場する。「ここまできたら全国大会に出場したい。熊本代表なので地震の支援へのお礼も込めて発表できれば」。地域に根ざす「商売人」はその思いとともに新たな舞台へと挑戦する。

賞状を手に持ち、受賞を喜ぶ兼田さん。長年続ける音楽で鍛えた声量や表現力だけでなく、地域全体の商売に対する「思い」がナンバーワンを勝ち取った秘訣かもしれない。



活き活きと輝き、誇れるまちゆのまえ

広報ゆのまえ3月号

TEL 0966-43-4111 FAX 0966-43-3013  
URL <http://www.town.yunomae.lg.jp/>



※ご意見投稿はこちらから